

ルート
3

ルートテーマ

石巻湊の礎と漁港の賑わいを今に伝えつつ、
新たに産業と居住集積を考慮した拠点的ルート
「居住と産業が隣接した憩いのルート」

ルート方向性

- 安全に快適に水辺と緑を感じながら散歩できるルート
- 背後地は産業集積する地区及び居住地域となり、職・住の人口を抱えることから、人々の憩いの場となるよう、連続した植栽空間を生みだし、活用することでルートが拠点性を持つよう配慮
- 移動途中に休憩し、水辺の景色を眺められるように配慮
- 堤防背後から親水空間に行き易いように工夫(階段やスロープ)

水辺の現況

- 震災後の浸水防止のため川沿いに浸水防止壁を整備。今後、地震・津波・高潮に対して粘り強い堤防が整備予定。
- 川沿いは津波により被災し、復興計画では、産業ゾーンと居住ゾーンとして再生される予定。

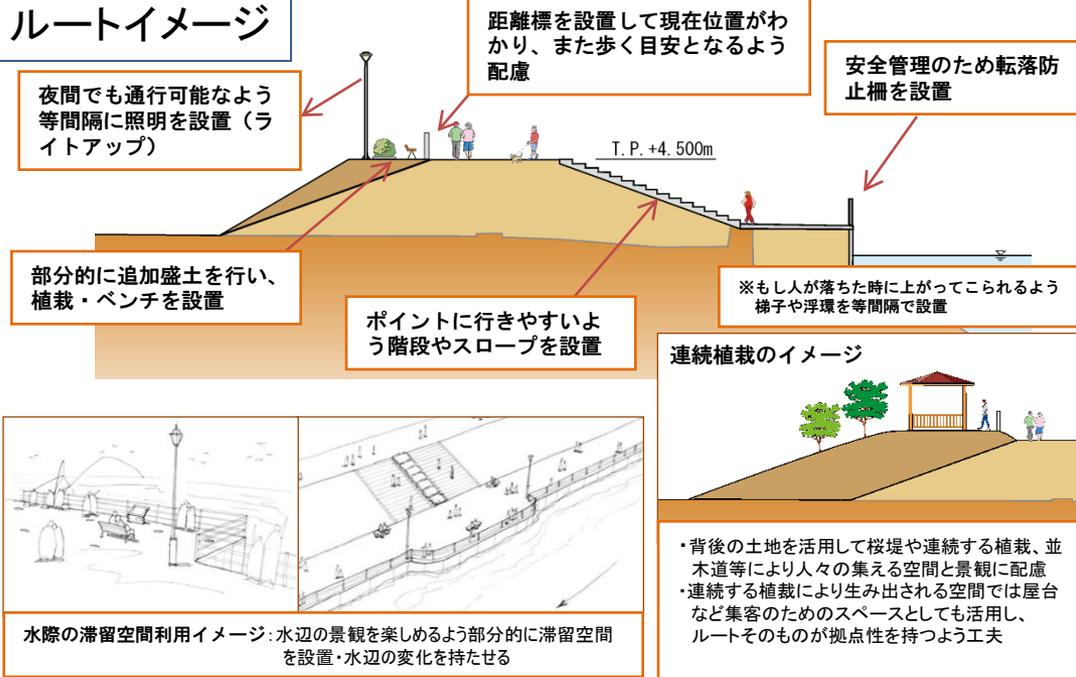


被災状況と震災後に設置した浸水防止壁



川沿いの道は車が通るため、安全に散歩することが難しい

ルートイメージ



※堤防や護岸等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

利活用方策

- 復興計画で産業集積地区と居住地域として予定されていることから、職・住合わせた住民の憩いの場として利用していく。
- 湊地区は、石巻湊としての歴史や昭和に漁港があった時代の賑わい、さらに造船業が営まれていたことなどから、石巻市の産業を学ぶエリアとして活用も考えられる。(案内板の整備により当時の産業の歴史を紹介していく)
- 連続した植栽空間(並木道等)を設け、人々の集いと憩いの空間を創出。屋台や出店など集客空間としても年間を通して活用し、拠点性を持つルートとして利活用を図る。



連続した植栽空間のイメージ

- 水辺の緑を創出・管理するため、町内会単位(沿川企業含む)等で水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や植栽管理を推進する。
- ルート・拠点間移動を容易にするため、安全を確保してサイクリングロードとしても活用する(レンタサイクルの発着所を整備)。
- 浮桟橋の設置による、中瀬や対岸との渡しや定期船運行の可能性を検討していく。

向
実
け
現
て
に

- 国で整備する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画や水辺の工夫等、具体を検討していく。
- 利用者・管理者等の間で堤防天端や水辺の利用ルール・管理区分等を調整していく。

7. 旧北上川上流のルート、拠点、ポイント

旧北上川上流の位置



7-1 旧北上川上流のポイント

- 右岸側の堤防上の道は、通勤通学、サイクリング、ウォーキングなど様々な活用に活用されている。
- 堤防上からは雄大な水辺の風景を望むことができ、良いロケーション。
- 大橋地区の広域消防署があるところでは、震災前は毎年石巻川開き祭りの花火大会が開催される場所であり、毎年多くの観客が訪れていた。
- 広い河川敷があり、釣り人や子供たちの遊び場として利用が図られている。
- 左岸側の堤防は、震災による沈下分の堤防嵩上げが計画されている。
- 左岸側は一部無堤区間であったが、震災を踏まえて新たな堤防が整備される。

左岸堤防から見る景観



真野川合流部



様々な利用されている堤防上の道



震災前には川開き祭りの準備をする孫兵衛船の姿も見られた。

左岸堤防から見た市街地



左岸堤防



震災前は川開き花火大会で利用されていた階段護岸



運河交流館付近



左岸上流の石巻専修大学と桜並木



ルート
④
ルートテーマ

旧北上川の風と風景を楽しむ
「川の風を楽しむルート」

- ルート方向性
- 川の風と風景を楽しみながら、散策、サイクリング等ができるルート
 - 堤防上には散策路(サイクリングロード)が整備済みであり、移動途中に休憩し、水辺の景色を眺められるよう配慮
 - 旧北上川の右岸河畔でも川とふれあえる河川敷があり、河川敷を使ったイベントなどの利活用が期待できる。

水辺の現況

- 石巻大橋から石井閘門までの堤防上の通路は、サイクリングや通勤通学、散歩、生活道路として利活用されている。
- 震災により地盤が沈下しており、沈下分だけ堤防を嵩上げる予定である。
- 特に、このルートから見る川は、水面の広がりを感じる素晴らしい風景を楽しむことができる(⇒途中で休憩するためのベンチ設置を検討)。
- 河川敷では、子供たちが遊んでいたり釣りを楽しんでいる人も見かけられ、レジャーとしての利活用が進んでいる。



サイクリングでの水辺散策



堤防上は安全な通学路



散策路は生活道路としても利用



河川敷は子供たちの遊び場



釣りを楽しんでいる人



ウォーキングや散歩を楽しむ人も多い



散策路からは鉄橋を通る電車(JR石巻線)が眺められる



散策路からは雄大な旧北上川を望められる対岸は真野川水門

利活用方策

- 散策路の維持管理のため、町内会などにより水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や堤防の植栽管理を推進。
- 河川敷の利活用が推進されるよう、水辺をゆっくり眺められるベンチの増設やPRを推進。また川の生物・植物を調べる子どもを対象とした学習会の開催も検討。



河川清掃イメージ

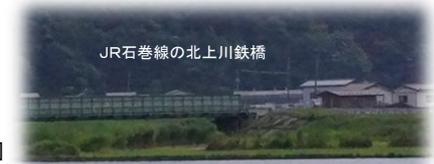


ゆったり水辺を眺められる水辺のベンチのイメージ



環境学習のイメージ(生物調査)

- 旧北上川河畔のルートでも、河川敷がある当ルートの特性を活かし、河川敷での更なる利活用が推進されるよう、公園的な整備を検討。
- 開北橋等を利用した対岸のルートとの広域的なネットワークを可能とするため、サイクリングロードや、イベント時の対岸への渡し等の活用について検討。



JR石巻線の北上川鉄橋

北上川鉄橋付近の河川敷 今後の利活用が期待される

向実
け現
てに

- 国で管理する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画等、具体化を検討していく。
- 利用者・管理者等の中で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。